

特集 加東消防署 新庁舎が完成

3月に、北はりま消防組合 加東消防署の新庁舎が完成しました。同庁舎は、緊急時のドクターヘリの離着陸場を備えるなど、管轄区域内での火災や救急・救助活動などに迅速な対応ができます。

今回の特集では、新しくなった加東消防署を取材。隊員の皆さんに、訓練施設や出動体制について、お聞きしました。



訓練設備について



加東消防署 救助隊長 山本行浩さん

加東消防署には、他では見られない珍しい訓練設備があるとのこと。訓練設備が充実している、どのようなメニューがあるのかを、山本さんにお聞きしました。

「加東消防署では、地形を活かした山岳救助用の設備（岩場）や、調整池を活かした水路での救助活動を想定した設備



訓練塔は、瓦の屋根やベランダのほか、マンションと同様のドア、煙が充満した部屋を再現できる施設など、あらゆる現場を想定した構造になっています。

などを整えています。これまでは、訓練のために消防署外に出向くこともありましたが、しかし、このような訓練設備を整えたことで、訓練のために消防署外に出ることなく、出動要請に更に迅速な対応が可能になりました。また、実際の現場を想定した訓練も企画しやすくなり、隊員の育成にも繋がります。」

体験コーナー



1階には、消火器での消火、119番通報を体験できるコーナーのほか、防火・防災意識の啓発や、心肺蘇生の方法等を紹介する動画が視聴できるコーナーを設けられています。

そのほか、住宅用火災警報器の啓発パネルなどを設置予定です。

普通救命講習

「普通救命講習」を毎月実施しています。同講習は、なぜ人工呼吸や、胸骨圧迫が必

出動体制について



加東消防署 警備予防係 主任 前嶋崇輝さん
加東消防署 警備予防係 城谷侑斗さん

火災や事故が起きるかどうかは、事前にわからないもの。常に急にやってくる出動指令に対して、どのような心構えで臨まれているのか、またどのような仕組みで出動されるのかを前嶋さんにお聞きしました。



出動準備室では、ズボンと靴をセットにして置くなど少しでも早く、現場に向かうために、あらゆる工夫がされています。

「出動時に心がけていることは『急ぐ必要はあっても、焦

る必要はない』ということです。焦りは出動時の、思わぬ事故や怪我につながる恐れがあるからです。どのような現場でも、落ち着いて対処できることが大切です。

出動の仕組みとしては、まず『予備指令』があった時点で、隊員は出動準備室に集まります。

出動準備室には、出動時の装備を入れたロッカーがあるほか、無線入れや地図、指令書が出力される印刷機などが置かれています。出動時、出動準備室に集まり、準備をしていると、役割分担や消火・救助の方針が示されます。消防車や救急車がある車庫と、出動準備室は直結しているので、すぐに移動できます。」



放水の様子など、あらゆる訓練や施設を見せてくださった前嶋さんと城谷さん。城谷さんは隊員になって2年目で、取材中も前嶋さんが丁寧にアドバイスをしていました。

要であるかを学ぶ座学から始まり、人形を使った救命実習のほか、AEDの使い方や止血の方法などを、3時間で学ぶものです。講習後は、普通救命講習修了証が交付されます。



申請・相談

2階の事務室で、消防法に関する申請や相談に対応するほか、地区で開催される自衛消防訓練の打ち合わせをしたり、計画書を受け付けたりします。



新庁舎の前には、消防隊員の銅像。旧庁舎時代の昭和62年に、寄贈を受けた物とのこと。新庁舎でも引き続き、加東市の安心・安全を見守り続けます。

『市役所分団』を結成



加東市役所では、市職員で構成された『市役所分団』を結成。平日の勤務時間内（8時30分から17時15分まで）に発生した火災に出動します。団員は、男女合わせて20人（4月1日現在で、4月1日に開催した、平成30年度加東市消防団出初式に参加したほか、4月3日に発生した火災にも初出動。今後も訓練を重ね、迅速な消火活動に努めます。